

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第7部門第2区分  
 【発行日】令和4年11月10日(2022.11.10)

【公開番号】特開2022-78112(P2022-78112A)  
 【公開日】令和4年5月24日(2022.5.24)  
 【年通号数】公開公報(特許)2022-091  
 【出願番号】特願2022-22794(P2022-22794)  
 【国際特許分類】

H 0 1 L 3 1 / 0 4 8 ( 2 0 1 4 . 0 1 )

C 0 9 K 3 / 1 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

B 3 2 B 2 7 / 3 2 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

10

【F I】

H 0 1 L 3 1 / 0 4 5 6 0

C 0 9 K 3 / 1 0 G

C 0 9 K 3 / 1 0 Z

B 3 2 B 2 7 / 3 2 E

【手続補正書】

【提出日】令和4年10月31日(2022.10.31)

20

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

太陽電池モジュール用の封止材シートであって、

ポリエチレン系樹脂を含有し、

J I S K 7 1 9 7 に準拠して測定した線膨張係数を、樹脂温度の関数として表した場合において、線膨張係数の変化率がその温度の前後においてのみ局所的に増大する温度である変曲点温度が2つあり、2つの前記変曲点温度のうち低温側にある第1の変曲点温度が55以上70以下の範囲内にあり、該変曲点温度のうち高温側にある第2の変曲点温度が80以上95以下の範囲内にある、

30

封止材シート。

【請求項2】

太陽電池モジュール用の封止材シートであって、

融点の異なる3種類のポリエチレン系樹脂を含有し、

前記ポリエチレン系樹脂のうちで最も融点の低い低融点樹脂成分よりも融点が高くて前記ポリエチレン系樹脂の中で最も融点が高い高融点樹脂成分よりも融点が高い中間融点樹脂成分の前記封止材シートの全樹脂成分中における含有量が、5質量%以上15質量%以下である、

40

封止材シート。

【請求項3】

前記ポリエチレン系樹脂のうちの1種としてシラン変性ポリエチレン系樹脂を含有し、

前記シラン変性ポリエチレン系樹脂は、前記中間融点樹脂成分である、

請求項2に記載の封止材シート。

【請求項4】

前記封止材シートの全樹脂成分中における前記低融点樹脂成分の含有量は、25質量%以上70質量%以下であり、

50

前記封止材シートの全樹脂成分中における前記高融点樹脂成分の含有量は、2.5質量%以上7.0質量%以下である、

請求項2又は3に記載の封止材シート。

【請求項5】

請求項1から4の何れかに記載の封止材シートを用いた太陽電池モジュールであって、透明前面基板、太陽電池素子、封止材シート、裏面保護基板がこの順で積層されている、太陽電池モジュール。

【請求項6】

前記太陽電池素子と前記封止材シートとの間にリード線が配置されており、前記封止材シートに対する厚さに対する前記リード線の厚さが90%以下である、請求項5に記載の太陽電池モジュール。

10

20

30

40

50